

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 10月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	0173600867		
法人名	有限会社 ライトマインド		
事業所名	グループホーム 花縁		
所在地	苫小牧市澄川町4丁目3番5号 (電話) 0144-61-7321		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年9月29日	評価確定日	平成21年10月16日

【情報提供票より】(平成 21年 9月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年 10月 21日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 14人、非常勤 0人、常勤換算 11人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費: (4~9月) 16,500円 (10~3月) 23,500円	
敷金	有(43,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(9月 29日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.4 歳	最低	78 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	光洋整形リハビリ内科、苫小牧澄川病院、杉村歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

遠くに樽前山や太平洋が望める自然豊かで、買い物にも便利な住宅地にある2階建てのグループホームである。建物は清潔で窓が多く、明るく開放感があり、また木のぬくもりが感じられ落ち着いた雰囲気となっている。部屋が機能的に配置され使いやすいつくりである。ホーム内には使い慣れた調度品や昔のオルガンなどが置かれており家庭的である。職員が利用者と家族のように接し、親しみやすく自由で明るい生活が送られている。スタッフ間の関係も良好である。看護師を配置し医療連携体制を整え、看取りケアを実施するなど医療面の安心感も備えている。地域交流や市との連携、運営推進会議や家族会議の充実なども十分に図られており、ホーム全体でサービスの向上に力を入れている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の指摘事項について「地域とのつき合い」「運営推進会議」「家族意見の反映」など改善に取り組み、成果をあげている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を各職員が作成し、ユニットごとに集約して理解を深め作成している。しかし職員の入れ替えも多く、キャリアの浅い職員の評価の理解や活用については継続課題であり、キャリアの浅い職員も含めて評価の意義の理解が図られるよう管理者等による教育面のさらなる充実を期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は町内会長や利用者家族、地域包括センターや市の職員など充実したメンバーが参加し、3ヶ月に1度開催されている。職員の異動や行事計画、外部評価などをテーマに意見交換され、議事録も整備されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や運営推進会議で家族の意見を収集しているほか、家族だけが集まる家族会を年2回程度開催し、代表者より要望書をもらい、運営に反映させている。また重要事項説明書に外部の苦情受付機関を明示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、ごみ拾い、お祭り、リサイクル事業等に参加している。またホーム便りを町内会で回覧させてもらっている。町内の青少年部の小中学生がホームを訪れることもある。ケーブルTVでグループホームを地域で支える町内会として紹介された。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人共通の運営理念の他にホーム独自の5項目からなるケア理念をつくり、「私たちはあなたが地域の一員として暮らすための『かけはし』になるよう努めます」の項目をつくり、地域密着型サービスとしての理念を確立している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケア理念は開設当初管理者や職員が意見を出し合い作成し、玄関ホールなど見やすい部分に掲示されている。職員は理念を念頭に日々取り組んでいるが、理解度は職員により異なっており、共有化の機会が十分とはいえない。	○	全職員のケア理念の理解と共有化を深めるため、ミーティングや研修で取り上げるなど、理解と共有化の機会の確保を期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、ごみ拾い、お祭り、リサイクル事業等に参加している。またホーム便りを町内会で回覧させてもらっている。町内の青少年部の小中学生がホームに訪れることもある。ケーブルTVでグループホームを地域で支える町内会として紹介された。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を各職員が作成し、ユニットごとに集約して理解を深め作成している。外部評価の指摘事項について「地域とのつき合い」「運営推進会議」「家族意見の反映」など改善に取り組み、成果をあげている。しかし職員の入れ替えも多く、キャリアの浅い職員の評価の理解や活用については継続課題である。	○	キャリアの浅い職員も含めて評価の意義の理解が図られるよう管理者等による教育面のさらなる充実を期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は町内会長や利用者家族、地域包括センターや市の職員など充実したメンバーが参加し、3ヶ月に1度開催されている。職員の異動や行事計画、外部評価などをテーマに意見交換され、議事録も整備されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市の介護保険課職員や地域包括センターに参加してもらっており、何かあればいつでも直接訪ねたり電話して聞ける関係を築いている。法人の他のグループホームも含めて市の担当者に気に掛けてもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時に報告するほか、写真を多用したカラフルで見やすいホーム便りを毎月作成し、送付している。ホーム便りの後ろに利用者ごとの記載欄を設けている。個々の金銭出納報告も領収書を添付して同時に郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議で家族の意見を収集しているほか、家族だけが集まる家族会を年2回程度開催し、代表者より要望書をもらい、運営に反映させている。また重要事項説明書に外部の苦情受付機関を明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や異動はなるべく少なくなるよう努力している。やむを得ず交代する場合は、引継ぎ期間を1週間程度設けたり、利用者の個々の状況に応じて納得してもらえよう説明を考えてダメージを防ぐようにしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や総合施設長の指導のもと内部研修が毎月開催されている。外部研修も全職員に参加の機会が確保されており、必要に応じてレポートの提出や研修報告も行なわれている。新人は研修計画に沿ってOJTが実施されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会を通じて、他のグループホームとの交流を行なっている。連絡会では管理者だけでなくリーダーや一般職員を集めた研修も開催され交流できている。ホームとしても他のグループホームと交流しており、職員も一緒に見学に行っている。リーダー研修の実習生も受け入れている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人がホームを見学し納得したうえで入居してもらうようにしているが、来ることができない場合は管理者や職員が本人を訪問し、馴染みの関係を築くようにしている。入居後も早く馴染めるよう利用者の状況に応じて、当初の家族に来てもらう回数を増やすなど工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と家族のように接しており、利用者から料理や家事を教えてもらうなど日常的に支えあう関係を築いている。若い職員も多く、職員が利用者にも相談を持ちかけたり、教えてもらう機会は多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望をしぐさや表情などから常に把握するようにしている。センター方式による個々の利用者の情報シートについて、当初家族に作成してもらったシートに、職員が情報を付け加えて充実し、情報を職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの情報や利用開始後の利用者の状況を把握して、担当者と計画作成者が介護計画を作成している。家族の来訪時に意向を確認し、来訪が少ない家族には電話で意向を確認する事もある。今年度からは全職員の意見を聞く事に重点をおき、介護計画を作成している。	○	職員の意見を介護計画に活かせるようになってきたが、連絡の取りにくい家族の意向や要望を汲み取る事が難しいので、今後は家族と連携を取り介護計画の説明や意向の汲み取りができるように期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月毎に作成している。毎月見直しを行い、奇数月は評価表を作成し、偶数月は施設介護経過記録を作成している。利用者に変化がある時は家族に電話やFAXで連絡を取り、状況に応じて現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況や利用者の体調に応じて事業所で通院介助を行っている。利用者の要望に応じて理美容の訪問支援を行っている。家族の来訪時に一緒に食事や宿泊などができるよう柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院介助は家族が行っているが、日々の対処法など医師とのコンタクトが必要な時は職員も同行している。利用者の体調変化時は手紙を家族に持参してもらい、診察結果は家族からの報告や医師からの手紙で適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「グループホーム花縁における看取りに関する指針」を作成し、利用開始時に本人と家族に説明している。看取りの契約が必要になった時に同意書を作成し、署名捺印を得ている。職員も指針を理解し、開設後5人の看取りを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄誘導は「ちょっと手伝って」などと声がけして、他の利用者に配慮している。個人記録は事務所で保管し、利用者の所で記録する時は「勉強している」などと話して利用者のストレスにならないように配慮している。面会簿は個別のカード式にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な食事時間はあるが、利用者の体調や気分にあわせて柔軟に対応している。1日の決まった日課はなく、個々の利用者に応じてそれぞれのペースで自由に過ごし、散歩も自由に出かけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の意向を聞きながら、系列3事業所の職員が交代で1週間毎に作成している。利用者に応じて、味付けや野菜の皮むき、配膳、盛りつけ、片付けなど職員と共に行っている。会話をしながら職員も一緒に同じ食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回以上を目安に毎日午後に行っているが、希望により午前入浴や毎日の入浴も可能である。体調の悪い時は清拭で対応している。入浴を拒否する時は個別対応時に誘ったり、相談事があると誘うように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者はトランプ、花札、懐かしい歌のビデオを見るなどの趣味を楽しんでいる。女性は食事の支度や配膳、調理、片付け、男性は大工仕事、畑で花を育てる、行事の会場設定などの役割を持つ事により、各利用者が張り合いのある生活をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	寝たきりの人以外は週1回食材の買い物などに外出している。地域の見守りにより、一人で自由に外出している利用者もいる。喫茶店に出かけたり、ドライブに出かけてソフトクリームを食べたりと利用者の希望に応じて日常的な外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドアは夜間のみ施錠している。玄関ドアにドアベルを設置して出入りを把握し、二階のユニットは夜間と早朝のみユニット玄関に鈴を付け、利用者の安全面に配慮している。一人で外出する利用者もいるが、地域住民との見守り連携が出来る。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署と連携して昼夜それぞれを想定した避難訓練を行っている。町内会を含めた緊急連絡網を作成し、避難誘導や移動の手伝い、給食の手伝いなど地域住民の具体的な援助内容を取り決めている。	○	消防署に相談し、全職員が定期的に救急救命訓練の講習を受講出来るように取り組んでいきたい意向なので、その取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事摂取量は毎日個別に記録している。職員が立てた献立は看護師資格のある総合施設長や管理者が簡単な栄養バランスのチェックをしている。利用者の健康状態に応じて、糖分や塩分摂取量を調節した食事を医師の指導の基提供している。	○	専門的な視点での栄養バランスのチェックを定期的に受けられるような機会が得られるよう、その取り組みを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の大きな窓からは明るい光が差し込むと共に、戸外の様子が見渡す事ができ、季節の移り変わりを感じる事ができる。トイレをスポットライトで照らし、夜間でも分かりやすいように配慮されている。居間以外にも利用者が一人になれる椅子を配置し、居心地良く過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入口に個性的な好みの表札をかけ、自分の居室が分かるように工夫されている。クローゼットと押入、ナースコールが備え付けられ、利用者の使い慣れた椅子やタンス、仏壇など好みの物が持ち込まれ、落ち着いて安心して過ごせるように配慮されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。